

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

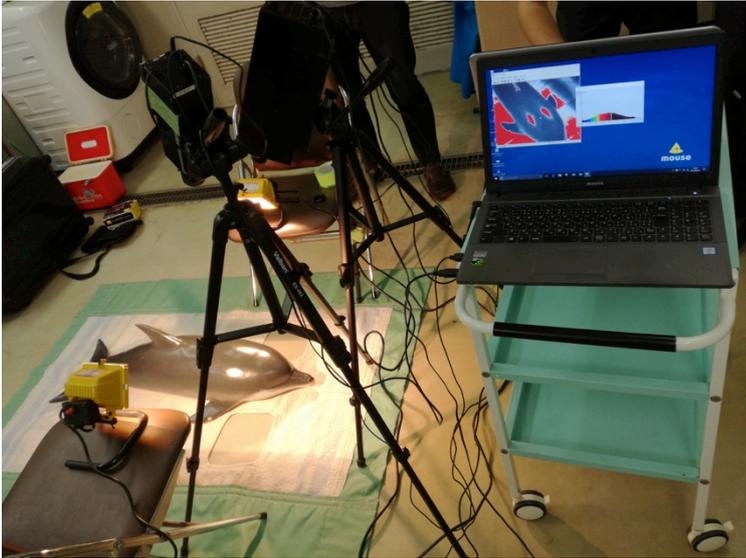
(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

2017/10/2	
所属部局・職	野生動物研究センター・博士課程学生
氏名	榊原香鈴美

<b>1. 派遣国・場所</b> (〇〇国、〇〇地域)
日本、福岡、マリンワールド海の中道
<b>2. 研究課題名</b> (〇〇の調査、および〇〇での実験)
スナメリの体表スペクトルの測定補助
<b>3. 派遣期</b> (本邦出発から帰国まで)
平成 29 年 9 月 21 日 (1 日間)
<b>4. 主な受入機関及び受入研究者</b> (〇〇大学〇〇研究所、〇〇博士/〇〇動物園、キュレーター、〇〇氏)
海の中道マリンワールド/獣医師・近藤圭佑, 海獣飼育主任・榎野宏保, 野生動物研究センター・特定准教授・森村成樹
<b>5. 所期の目的の遂行状況及び成果</b> (研究内容、調査等実施の状況とその成果：長さ自由)
写真 (必ず 1 枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの) の説明は、個々の写真の直下に入れること。 別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。
<p>本出張では、スナメリの体表スペクトル明らかにするため、人間の知覚外の細かい分光で撮影可能なハイパースペクトルカメラで海の中道マリンワールドの飼育個体 3 頭の撮影・測定を行った。</p> <p>海洋に生息する鯨類は、通常背びれ、ないし尾びれの欠損や体色パターンの特徴を記録することで個体識別される。しかしスナメリ (<i>Neophocaena spp.</i>) は背びれを持たず、かつ単色で体色パターンがないため判別が難しい。そのため、これまでは個体を長時間追跡して観察された研究はほとんどなく、また群れ構造のような個体情報が必須となる研究はないに等しい。本研究では、熊本県三角西港に最大 63 頭という大きな群れでみられるスナメリの群れ構造や回遊の日周性・季節性をより詳細に調査するため、野生スナメリの個体識別手法の確立を目標に、体表の光特性をハイパーマルチスペクトルカメラで明らかにすることを目的とした。</p> <p>本測定は、近藤獣医を中心とする海の中道マリンワールドの海獣・スナメリ飼育担当者、ハイパースペクトルカメラでの撮影・分析を担うエバ・ジャパンの 2 名、京都大学野生動物研究センターから森村・榊原でおこなった。</p> <p>&lt;当日の概要&gt;</p> <p>13:00 集合、最終打ち合わせ、機材確認</p> <p>14:55 プールサイドでの機材セッティング</p> <p>15:30～ 撮影</p> <p>16:20 分析・結果表示</p> <p>17:00 解散</p> <p>撮影は個体への負担減少のため毎月おこなわれる健康診断時にプールサイドでおこない、安全に撮影を終えることができた。撮影日当日の簡単な分析結果では、個体識別に使えるような明らかな体表の特徴の検出にはいたらなかった。しかし、スナメリ特有の体表スペクトルやそれらが地域個体群間で共通していることなど、議論に値する有益なデータであった。10/14 の鯨類・鰭脚類行動シンポジウムで発表予定である。</p>

## 「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)



写真：イルカの模型を用いた機材設置の調整と撮影練習風景



写真：スナメリが機材で怪我をしないよう保定しながらの撮影（プールサイド）

### 6. その他（特記事項など）

海の中道マリンワールドの近藤圭佑さま、榎野宏保さまを始め、スナメリ飼育に携わるスタッフのみなさまに大変お世話になりましたこと、この場で感謝申し上げます。また撮影日に臨機応変に撮影機材の追加をしてくださいましたエバジャパンの安藤史織さま、藤森雄大さまのご協力により有益なデータ取得につながりましたこと御礼申し上げます。